



# 鎮守の森だより

NPO法人社叢学会ニュース

第103号

2020年1月7日

## 社叢コミュニティ文化の復権をめざして

NPO法人社叢学会理事長・京都大学名誉教授

藺田 稔

「令和」の御代替わりという、わが国にしかあり得ない時代の改まりに浴して何やら二重の時の新生を実感する正月を迎えることになりました。明けましておめでとうございます。

いわば、日本古来の神話文化が30年ぶりに顔をのぞかせたかを覚えますが、しかし他方で相変わらず冷徹な歴史文明の荒波が容赦なく不可逆的に身边をおびやかすことも現実です。

このところ毎年の本誌年頭所感に採り上げてきたテーマですが、本学会の活動にも関連する国際的文明レベルの気候変動対策の動向と、国内的文化レベルの深刻な人口減少社会への対策とが挙げられます。

かつて1997年12月に成った「京都議定書」以来の、国連における一連の地球温暖化対策がともかくも昨年度で終了し、次のステップとして2015年12月にパリで開催された国連気候変動会議 COP21で196の国と地域の全会一致で採択した「パリ協定」（気候変動枠組み条約）が今年2020年から2030年にかけて稼働されるに当たり、つい昨年末に開催されたスペイン・マドリードでの締約国会議 COP25では、具体的な温室効果ガスの削減目標の引き上げをめぐり、締約国同士の合意がまとまらずに一部は次回に積み残したとのことです。

昨年の台風15号や19号の猛威やゲリラ的な集中豪雨の大被害も、今後は気候の激甚化の兆しと思えば、近年にも警戒される大震災や大津波と合わせて、その防災や減災に日頃から対策を怠らぬようにしたいものです。

いささか手前味噌にも当たりますが、平成14年（2002）発足以来の本学会の活動も、近來の極端な都市文明化による森林環境の破壊を憂慮しての社

叢文化の学際的な検証と育成であり、その証しの一つが、たとえば昨年7月に発刊した『いのちの森をたどる』（A4版329頁）という東日本大震災復興支援活動の記録・報告書の内容といえましよう。会員諸兄姉には、改めてこの報告書に目を通され、特に第3部のシンポジウム記録を熟読して欲しいものです。

もう一つの課題といえば、先述の国内社会が当面する全般的な人口減少への対策ですが、本学会に関連してこれを捉えるとすると、地方における少子高齢化による限界集落化であり、都市部における無縁社会化です。いずれも社叢コミュニティ存続の危機といえましよう。

その面で、近年の会員の皆さんによる活発「社叢見守り隊」の現地調査の積み重ねは極めて有効と感謝しておりますが、叶うならば、現地の氏子住民にも面接して社叢への想いを喚起して頂ければと愚考します。小生の属する神社界にしても、遅まきながら全国過疎地における小規模神社の存続対策として、氏子集落の活性化に神事芸能による関係人口の涵養を試みていますが、社叢の保全にも地元コミュニティの愛着こそ肝要と思うのです。

それにしても、最近の衝撃的な刊行書に岡田尊司という名の精神科医が書いた『ネオサピエンス』、その副題に「回避型人類の登場」とある本によりますと、IT革命の生物学的影響で脳神経回路を組み替えられた新人類の時代が来るということになりますと、あるいは当面のあらゆる事態が別次元に様変わりするかも知れませんが、ともかくも令和という新時代を拓く初めての正月を共に祝いすることにしましょう。



## 震災を経ても土地に生きる

—南三陸町波伝谷、12年間の映像記録を通じて

講師：我妻 和樹 (映画監督)

波を伝える谷という名を持つ集落の記録映画「波伝谷に生きる人びと」は監督の我妻和樹氏が、大学の民俗調査に関わった波伝谷に卒業後も通い続け、3年間に渡って記録したもので、毎年3月に行われる獅子舞の行事(春祈祷)を中心に、過渡期にあるコミュニティと人びとを丁寧に映し出した作品である。撮りためた映像を波伝谷で披露しようとした前日、大津波に襲われた。

映画会に続いて我妻氏にお話を伺った。

### 1. 映画を作るきっかけ

宮城県白石市に生まれた我妻氏は、小学生の時に映画監督を夢見ていたが、中学生の時に自主制作した映像作品に愕然とし、自分の世界観や物事を見つめる力を養おうと東北大学文学部史学科に入学。民俗学に関心を持ち、三陸町戸倉地区波伝谷での民俗調査プロジェクトに参加した。

このプロジェクトには3年間でのべ70人の学生が関わり、継続的に地域に入り続けることで、表面的な関わりだけではわからない地域の暮らしや人間関係が立体的に見えてくるようになる。土地に根差し、互いに深く関わりながら生きている波伝谷の人たちの生き方に強く惹かれ、文章だけでなく、現実に生きている人の生の魅力や地域の中で生きていくことの複雑さを映像で伝えたいと思うようになり、卒業後も波伝谷に通いドキュメンタリー映画の製作を開始した。

### 2. 映画「波伝谷に生きる人びと」

波伝谷は南三陸にある小さな漁村である。山のミネラルが流れ込む志津川湾でのカキ、ホヤ、ワカメ、ホタテなどの養殖が盛んであるが、昭和の中頃までは養蚕、炭焼きなどの陸の資源を活用した生業が中

心だった。

「契約講」と呼ばれる旧家からなる組織を中心に、様々な互助会や行事が存在し、血縁関係が濃く、結びつきの強い地域である。

毎年3月の第2日曜日に行われる「お獅子さま」(南三陸町の無形民俗文化財に指定されている波伝谷の春祈祷)という行事が、地域の結びつきをより強固なものにしており、先祖代々の土地に守られ、地域のつながりの中で生きているという実感と安心感を得ながら循環してきた暮らしのあり方は、近年、持続可能性社会の一つのモデルとして注目されている。

学歴などなくても地域の中で成長し、それぞれに役割を担いつつ、考え方や価値観が違っても、互いに認め合い、必要とし合いながら生きていく人びとの生き方。そこでの人と人との関わり合いは、ときに煩わしく、面倒な事も多いけれど、そうした負の側面も含めて、互いに影響を与え合い、支え合う暮らしのあり方こそが、人が生きる上で大事なものののではないかと、そして今の私たちにかけているものではないかと問いかける。

カメラワークは時にテンポよく進まない。それは人びとに寄り添い、向き合うことから感じた監督の想いでもある。飾らない、ありのままの姿が映像に現れる。

大津波に襲われたことで新たな視点が加わり、ラストシーンでは会場が水を打ったように静まり返った。

震災後の続編「願いと揺らぎ」では、お獅子さまの復活をきっかけに人びとの復興への願いと、すれ違いからくる心の揺らぎを丁寧に追いかけて、震災を経たのちも土地に生き、地域とともに生きるということは一体どういうことなのかを描き、数々の映画祭で話題を呼んでいる。  
(文責 渡邊 節子)



## 加佐登神社の社叢と白鳥塚古墳

話題提供：長谷川 泰洋 (名古屋産業大学)・藤原 秀樹 (桑名市考古博物館)

コメンテータ：岡村 穰 (社叢学会理事・名古屋市立大学名誉教授)

### バリアフリーの遊歩道

諏訪大社下社秋宮で開催された平成30年度社叢学会研究発表会で紹介された前出健太郎さんの「車椅子で楽しめる鎮守の森」の現地訪問を行った。中部研究会の日程に合わせて、台風19号による土砂崩れの復旧工事を、杉・檜の間伐材を利用した丸太を使った土留めを各所に施す突貫作業を終えた所であっ

た。2014年に12年間かけて開通したつづら折れの800mに渡る遊歩道は、植生も豊かになり、地域の方の散策や子育て支援団体の自然体験活動、保育園の園児のお散歩、部活のランニングなど幅広い活動に使われている。

### 加佐登神社の植生について

19世紀末の時点では、鈴鹿山脈へとかろうじて針葉

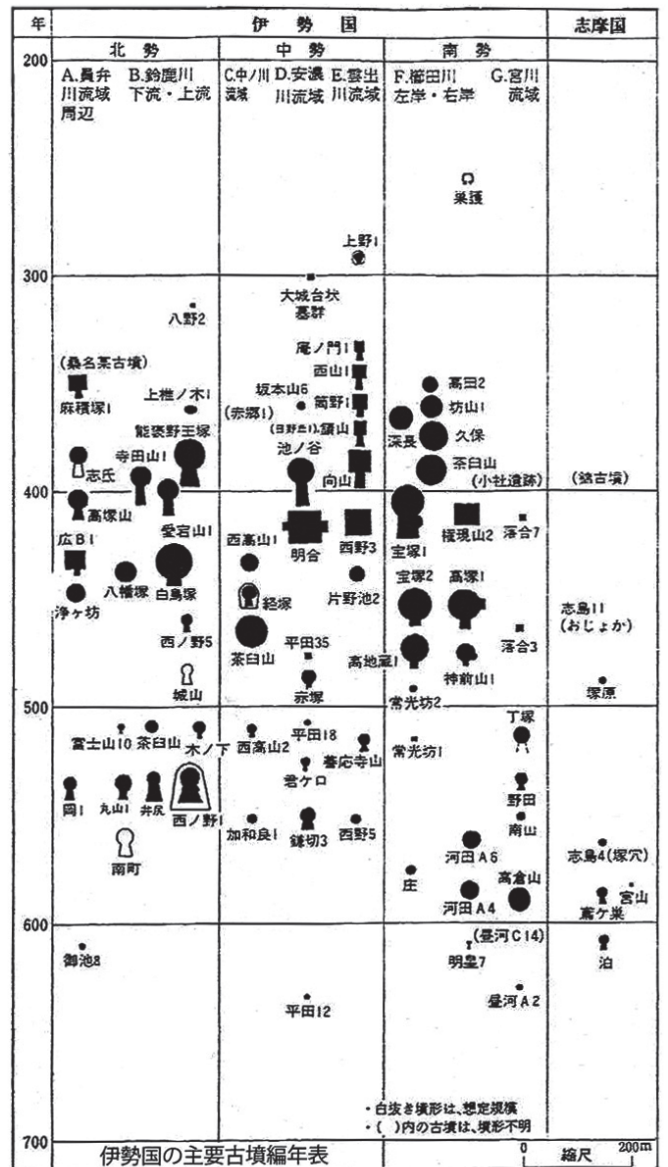
樹を主体とする山林が続いていたが、1920年には桑畑・茶畑・水田が拡大し、孤立林として暖地・海岸性のスダジイを主とするシイ林になっている。亜高木層にはヤブツバキが多く見られ、草本では水分の多い地質を反映してベニシダが多く、タチシノブ、キジョラン、ヤブムラサキ、シライトソウ、コクラン、ホウオウゴケなども見られる。特に、アカネ科のホソバオオアリドオシは鈴鹿市初記録となるもので、隔離分布している植物も多く、保全が望まれる。神苑は県下有数のムラサキツツジの名所でもある。

### 白鳥塚古墳と古代の鈴鹿

白鳥塚がヤマトタケルの墓であるとする記録は、古事記(712)、令集解(868)、日本書紀(720)、続日本紀(797)、延喜式諸陵寮(927)、江戸幕府による修理記録(1699)、三国地誌(1763)、古事記伝(1798)、能褒野陵考(1788)などに見られ、明治政府も1876年にはヤマトタケルの墓と認めていたが、1879年に亀山市にある4世紀末(古墳時代中期初頭)の築造と推定される伊勢北部地方では最大規模の前方後円墳である能褒野王塚がヤマトタケルの墓であると改定した。1923年の県史跡指定の際には、県内最大の円墳とされていたが、2004年から05年にかけての8カ所のトレンチ掘削を含む調査で、三重県内第三位の帆立貝式前方後円墳であることが確認され、出土した埴輪に野焼きによる黒斑があることなどから五世紀前半に築造されたと推定された。

帆立貝式古墳は、王権による前方後円墳築造への抑制策から、5世紀に全国に普及した円形の墳丘に方形の張り出しを持つ古墳で、文官・武官・技術者として王権に仕えた新興の有力者の墓の形態で、大王の子息の墓の形態ではないと推定された。

ヤマトタケルの死後、父の景行天皇が当地に9か月間滞在し、「高宮の里」とも呼ばれた。近くには伊勢国府跡や鈴鹿関跡もあり、古代の軍事的・文化的要衝地であった。



## 次回予告【第84回関東定例研究会】

- ◆日 時：1月25日(土) 14:00~16:30
  - ◆場 所：國學院大学・渋谷キャンパス120周年記念2号館2104教室(変更の可能性あり)
  - ◆テ - マ：玉川上水生き物調べータヌキと花マップー
  - ◆講 師：高槻 成紀(麻布大学いのちの博物館上席学芸員)
  - ◆上映作品：未定
- ※ 共催：ポーラ伝統文化振興財団・國學院大學環境教育研究プロジェクト

## 次回予告【第38回中部定例研究会】

- ◆日 時：3月1日(日) 10:30~15:00
- ◆集合場所：渋川神社社務所(愛知県尾張旭市印場元町5丁目3の1)  
※ 集合後、直會神社へ移動
- ◆テ - マ：天武天皇大嘗祭の悠紀斎田を巡って
- ◆話題提供：朝見渋川神社宮司・長谷川泰洋他(予定)
- ◆コメンター：櫻井治男(皇學館大學・社叢学会理事)

## 事務局から

- 謹んで新春のお慶びを申し上げますとともに、会員の皆さま方のご健勝をお祈り申し上げます。昨年、今年こそは平安にと書きましたが、九州を中心とした西日本では3ヶ月にわたって豪雨にさいなまれ、9月には連続して関東地方を襲った台風が都市基盤を破壊する被害を引き起こすなど、枚挙にいとまのない災害に襲われました。これは日本だけのことではなく、世界各所で猛暑や極度の乾燥、森林火災など、地球の籠がはずれたのかと思わせるような出来事が連続いたしました。  
社叢という身近な緑を守り育てるという当学会の活動は、このような事態を前に、あまりに小さく無力だと思われるかもしれません。しかし、身近にある自然、社叢の課題を見逃して地球規模に進めるわけがないと考えます。今後とも力を尽くしてまいる所存です。今年も変わらず、種々ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
- 年次総会は秩父で開催いたします。初日に秩父神社で総会・研究発表・シンポジウムを、翌日の見学会では「柞の森」を擁する秩父神社は勿論のこと、狼の残像を今に伝える三峯神社、寶登山神社と秩父三山を巡拝いたします。ぜひご参加下さい。  
また、例年通り研究発表者を募集しております。こちらにも奮ってご応募下さい。
- 社叢インストラクター資格認定試験につきまして、今年実施を見送る予定です。受験資格保有者(社叢インストラクター養成セミナー既修者及び同等の資格を有する者)で受験を希望される方は事務局

にその旨お伝えください。実施に向けての検討をいたします。ご遠慮なくお申し出下さい。

- 社叢見守り隊は、目下、関東(武蔵・千葉)、関西(神戸市)で活動を重ねています。先に記しましたが、昨年来、台風等により各地の社叢に大きな被害が出ております。ご近所の社叢で被害を受けたり、様子が変わったということがありましたら、ぜひ事務局にご一報下さい。ホームページ記載のブログのような詳細な報告でなくてもよいのです。写真1枚でも結構です。何よりも関心を抱いていただくことが重要で、こうした蓄積がやがて大きな力となっていくと存じます。社叢学会はこうした小さな活動から成り立っています。皆さま方の”気づき”を、ぜひお寄せください。

## 編集後記

オリパラかあ。。。この欄でもしばしば書いているのだけれど、真夜中にひっそり放映されるジミな競技にこっそり熱中するのが好きだったのになあ。

今回は花形種目が早朝からって？ てことは滋味溢れるジミ競技は真っ昼間？ ほんじゃこれを見るためには、、、。そうか！ 会期中は夏休みやね！ 名案や！ とはいえ、ジミ競技ってなに？

閑話休題(だからあ、ぜ～んぶ「閑話」やって!)、秩父といえば狼でしょ。赤ずきんちゃんとか、ピーターと狼とか、そないに嫌わいでもよかろうに。そ、実は秘かに狼好き。秩父ではいろんな神社に狼像があつてね、これがっ！ 妙にカワイイのよ。見学会はいつもハードスケジュールなんだけれど、どれでも良いので見せてくださ～い。(藤岡 郁)

### 速報!

年次総会は5月30日・31日に秩父で!

総会・研究発表・シンポジウムは30日(土)に秩父神社で  
31日(日)には狼の面影を探して秩父三山を巡拝

## 研究発表者募集!

テーマ：社叢に関する理論的研究  
社叢の保存・拡充に関する実践的調査研究  
発表時間：20分(報告15分+討論5分)  
応募締切：2020年3月末日必着  
応募要領：住所・氏名を明記の上、発表内容を300～400字にまとめ、E-Mail、FAX、郵便で本部事務局に送付

- \* 応募者多数の場合は担当理事で協議し、4月中旬までに諾否をお知らせいたします。
- \* 発表者は、発表当日に配布する資料を4月末までに本部事務局にお送り下さい。

発行人 社叢学会事務局 〒604-8115京都市中京区雁金町373番地みよいビル303号  
TEL・FAX 075-212-2973  
URL <http://www.shasou.org> E-Mail [shasou@ams.odn.ne.jp](mailto:shasou@ams.odn.ne.jp)  
facebook <https://www.facebook.com/shasou>  
社叢学会関東支部 〒368-0041 秩父市番場町1-1 秩父神社社務所内  
TEL080-1514-5032 E-Mail [shasougakkai@hotmail.com](mailto:shasougakkai@hotmail.com)